

NEWS RELEASE

2021年12月23日

各位



〒656-0101 兵庫県洲本市納 85 番地 1

代表取締役社長 橋本琢万

高齢者を守る「移動スーパー」の取り組み（年末特別火災警戒）

当社は、淡路広域消防事務組合（消防本部 予防課）と連携のもと、訪問先の高齢者（洲本市および淡路市の合計約400名）へ、住宅用火災報知器の設置の呼びかけ（パンフレット配布）を通じ、防火啓発を12月23日（木）より行います。

【日程】 2021年12月23日（木）～12月25日（土）

【内容】 年末特別火災警戒（淡路広域消防事務組合、消防本部予防課と連携のもと）

【対象】 移動スーパー「とくし丸」訪問先の高齢者（洲本市および淡路市、合計約400名）

2020年に起きた住宅火災のうち、約72%が65歳以上の高齢者で、亡くなった理由は『逃げ遅れ』が全体の半分以上を超えています。（政府広報オンラインHPより）

『逃げ遅れ』を防ぐため、住宅用火災報知器が2011年6月から、既存住宅にも設置が義務付けられ（新築住宅は2006年6月から）、10年が経過します。

淡路島は兵庫県内の設置率がワースト1と、設置促進が優先課題となっています。しかし、高齢者には情報が届きにくく、消防本部は頭を悩ませておりました。

そこで日々、高齢者の方々と対面で接している移動販売の特性をいかし、消防からの情報を届け、啓発する取り組みを行うこととなりました。今回は、特に設置率が低い淡路市（山間部が多いため、情報が届きにくい）、家が密集している洲本市（由良地区など古い家が密集）を中心に、設置を呼びかけ防火啓発を行うものです。年末特有の慌ただしさ、空気の乾燥や季節風等の気象条件が重なるこの時期に、火災の恐さをしっかり伝え、防火の啓発を行ってまいります。

移動スーパーが訪問する独居高齢者は、周囲との交流（相談する相手）が少なく、行政の情報が届きにくい実情があります。今後も、行政機関（市・警察・消防 他）と連携を図り、高齢者が住み慣れた地域で、安心して自立した生活を営めるよう、啓発活動を続けて参ります。

以上